

成績評価

(1) 試験

各授業科目の試験には、定期試験及び追試験があります。ただし、授業科目によっては、定期試験の代わりにレポートを課したり、授業時間の中で小テストを実施する場合や実技試験を行う場合があります。

①定期試験

各クォーターに設けている試験期間に、履修登録を行っているものが受験できます。

②追試験

別表の事由により定期試験を受けることができなかった場合には、追試験を受けることができます。追試験を受けようとする者は、MyEikei を通じて試験を受けることができなかった事由を証する書類データを添付の上、原則として試験日から7日以内に教学課に願い出てください。なお、追試験は、申請が許可された後、担当教員が別に指定した日に行います。

【別表】

事由	適用される事例
学校保健安全法に定められた感染症	第一種・第二種・第三種感染症
忌引	父母、配偶者、子、祖父母、兄弟姉妹、伯父（叔父） 伯母（叔母）、曾祖父母
その他、やむを得ない事由	交通機関が不通や遅延の場合、災害、病気（上記の感染症を除く。）、家族の危篤、事故、怪我、就職活動、裁判員・検察審査員等への選任、その他学部長が妥当と認め、事前に提示するもの（都度の審査等 は行わない）

(2) 成績評価

ア 基本的な考え方

本学では、叡啓大学におけるコンピテンシーとアクティブ・ラーニングの考え方に即した成績評価を行います。成績評価の対象、方法、基準についてはシラバスに明記し、学生に十分な説明を行います。

イ 単位と評点

単位は、シラバスに記載された基準にもとづき、合格と判定された者（次表のS、A、B、C、およびNの評価を得た者）に与えられる。成績評価と評点の関係は、次表のとおりです。

評価	評点（100点満点）	可否判定
S（秀）	90点～100点	合格
A（優）	80点～89点	
B（良）	70点～79点	
C（可）	60点～69点	

N (認定)	—	認 定
F (不可)	59点以下	不 合 格

(3) 成績通知と評価

学生への成績通知は、MyEikei を通して行います。学生は、成績を確認後、指定された期日までに
 教学課に対して成績に関する問い合わせを行うことができます。

(4) 成績に関する問い合わせについて

成績通知を確認後、指定された期日までに、成績に関する問い合わせを行うことができます。評価方
 法や成績について問い合わせがある場合は、問い合わせの根拠となる資料(出席回数やレポート提出記
 録等)とともに、MyEikei から所定のフォーマットにより提出してください。

なお、教員は評価方法をシラバスにて学生に明示し、それに従い責任をもって成績をつけています。
 そのため、入力ミスやシステムの不具合などの事故を除いて、成績を変更することはありません。シラ
 バスに記載の評価基準を確認し、根拠資料等を明確にした上で問い合わせを行ってください。

GPA 制度

学生の学修意欲を高めるとともに、教育の質保証と学生支援に資することを目的として、グレードポ
 イントアベレージ (Grade Point Average 以下「GPA」という。)を導入しています。

本学における「GPA」とは、各授業科目5段階の成績評価に対応して4～0のグレードポイント(以
 下「GP」という。)を付与して算出する1単位当たりのGP平均値です。

留学や大学院進学のためとしてGPAを使用する大学が海外では多いことから、本学においても、学生
 の学習意欲を高めるとともに、教育の質保証と学生支援に資することを目的として、本制度を実施しま
 す。

(1) 成績評価及びGP

履修規程に定める成績評価に対応するGPは、次のとおりです。

点数	評価	GP
90～100	S (秀)	4
80～89	A (優)	3
70～79	B (良)	2
60～69	C (可)	1
0～59	F (不可)	0

(2) GPA 対象科目

GPAの対象科目は、5段階評価によって成績認定される授業科目であって、卒業要件に算入でき
 る授業科目です。なお、成績評価N(認定)となる科目については、GPAの対象外とします。

(3) GPAの種類及び計算方法

GPAの種類は、「クォーター(学期)GPA」及び「通算GPA」の2種類とし、次の計算式によ

り算出します。なお、算出に当たって、小数点第3位以下は切り捨てます。

ア クォーター（学期）GPA

当該クォーターに履修したGPA対象科目の成果を示すもの。

$$\text{クォーター（学期）GPA} = \frac{\text{（当該授業科目のGP} \times \text{単位数）の当該クォーター合計}}{\text{当該クォーターに履修した授業科目の単位数の合計}}$$

イ 通算GPA

在学中における全期間の学修の成果を示すもの。

$$\text{通算GPA} = \frac{\text{（当該授業科目のGP} \times \text{単位数）の通算合計}}{\text{履修した授業科目の通算の単位数の合計}}$$

（4）計算方法の特例

ア 本学入学（編入学を含む。）以前に他大学等で修得した単位については、対象としません。

イ 不合格科目を再履修し、合格した場合、再履修前の不合格評価を通算GPAの計算から除外します。

（5）GPAの通知

学生へのGPAの通知（クォーターごとに確定した成績にもとづくクォーターGPAおよび通算GPA）は、MyEikeiを通して行います。

なお、クォーターGPAが基準値を下回った場合は、学生支援の観点から、担当教職員が、該当学生の状況確認や面談等を行うことがあります。

別表：叡啓大学共通コンピテンシー・ルーブリック

* 次ページを参照

叡啓大学共通コンピテンシー・ルーブリック（2025版）

コンピテンシー	5: 卓越 distinguished	4: 優秀 proficient	3: 達成 competent	2: 発展中 progressing	1: 入門 beginning
グローバル・コラボレーション力 仲間と未来をつくる	多様な人びとや考え方と相互作用し、自己変容しながら成長できる。グローバル市民として、他者への働きかけを通して、より良い社会の構築に貢献できる。	多様な人びとや考え方から学び、相互作用し、自分の考え方を相対化することができる。多様性から学び、社会に貢献することの意義を理解できる。	多様な人びととコミュニケーションをとったり、多様な考え方から学ぶことの意義を理解したうえで、自分と関連づけることができる。	多様な人びととコミュニケーションをとったり、多様な考え方から学ぶことの意義を理解している。	多様な人びととコミュニケーションをとったり、多様な考え方から学ぶことに無関心あるいは抵抗感を示す。自分の考え方を述べるが、一方的な視点にもとづいている。
先見性 問題を発見する	クリティカルに考えるべき問題を総合的かつ明確に説明できる。問題の複雑さをふまえ、自らの意見や仮説の限界を認識できる。他者の視点や見解を自らの意見や仮説に統合することができる。	クリティカルに考えるべき問題を深刻な誤解が生じない程度に十分に説明できる。問題の複雑さを考慮したうえで自らの意見を形成できる。他者の意見を受けて思考を深めることができる。	クリティカルに考えるべき問題を、概要が伝わる程度に説明できる。問題の複数の側面を認識し、異なる意見をふまえて、自らの意見を形成できる。	クリティカルに考えるべき問題を述べるが、用語や背景の説明が不十分で内容が曖昧である。問題に複数の側面があることを理解し、自らの意見を形成できる。	クリティカルに考えるべき問題を十分に述べられていない。問題の複雑さを十分に把握できていない。特定の立場から意見を述べるが、単純でありきたりのものに留まる。
戦略性 調査・分析・設計する	問題／問いを深く理解したうえで柔軟な計画を示し、具体的な状況に適用できる。個別の文脈に即し、倫理的・社会的側面にも配慮した論理的な計画案を提示できる。	問題／問いを深く理解したうえで柔軟な計画を示し、具体的な状況に適用できる。個別の文脈に即してデザインした計画案を提示できる。	問題／問いを理解したうえで計画を示し、具体的な状況に適用できる。既存の計画案を個別の文脈にある程度応用できる。	問題／問いを理解したうえで計画を提案するが、具体的な状況での適用は限られる。計画案は既成のものであり、個別の文脈に応用できていない。	問題解決や研究上の問いに取り組むための計画を提案するが、具体的な状況にそぐわない。問題／問いの把握が不十分であり、計画案との関連が不明瞭である。
実行力 粘り強くやり抜く	プロジェクト遂行過程で、自らと周囲の知識やスキルを高める場を作り、広げることができる。学生・教員・外部協力者間のコミュニケーションを促進し、個々の貢献を尊重しながら統合し、目標達成に導くことができる。	プロジェクト遂行過程で、自らの知識やスキルを高めることができる。ピア学生や教員・外部協力者とのコミュニケーションを円滑にとり、目標達成に活かすことができる。	プロジェクトを遂行し、その過程を知識やスキルの向上と関連づけることができる。ピア学生や教員・外部協力者とのコミュニケーションを円滑にとれる。	与えられた課題に取り組み、完成する。ピア学生や教員・外部協力者の意見を聞き、受け止めることができる。	与えられた課題に取り組むが、完成にいたらない。ピア学生間や教員・外部協力者とのコミュニケーションが不十分である。
自己研鑽力 学び続ける	興味を持ったテーマを深く探究し、独創的なアイデアや新たな発見を提示できる。過去に学んだことを新たな状況に創造的に接続させ、知識やスキルを高め、視野を広げることができる。	興味を持ったテーマを深く探究し、新たな知見を得ることができる。過去に学んだことを新たな状況に接続させ、知識やスキルを応用することができる。	特定のテーマに興味を持ち、自ら調べることによって新たな情報を得ることができる。過去に学んだことを新たな状況に接続させ、知識やスキルの応用を試みている。	特定のテーマに興味を持ち、自ら調べようと努力している。過去に学んだことを新たな状況に関連づけることができる。	与えられたテーマに取り組むが、探究が不十分で、興味がないことが示唆される。過去に学んだことと新しい状況の関連づけが曖昧である。